

●モノグラフ

小学生ナウ

Vol. 8-6

やる気

目次

要 約	2
はじめに	6
1.勉強をめぐって	7
●将来なりたいもの	7
●自己像	9
●がんばって勉強しているか	10
●どのくらいまで達成できるか	11
2.どのくらい努力しているか	14
●好きな教科・きれいな教科	14
●学習態度の違い	16
●係と掃除	19
3.あきらめるか、がんばるか	21
●勉強に関して	21
●運動能力について	24
●友だちとの間で	26
4.今、熱中していること	28
●何に熱中しているか	28
●どのくらい熱中しているか	30
●その熱中ぶり	31
5.成績のよい子・悪い子	33
●自己像とアスピレーション	33
●今、どのくらいがんばっているか	35
●学習の態度	37
●係の仕事や掃除当番について	42
●成績とやる気	43
地球社会の子どもたち ⑥ ソウル—その3 ハングル	深谷昌志……44
資料1 調査票見本	49
資料2 学年・性別集計表	58
資料A 自由記述からの抜粋	70

※おことわり：本文中に使用した写真は本文・テーマとはいっさい関係ありません。

調査レポート

やる気

要約

東京学芸大学教授 深谷和子
 埼玉医科大学助手 堀 真実

1. やる気とは

よく使われる「やる気」は、心理学では達成動機と言われ、むずかしい対象、より高度なレベルへ到達したいという意欲を指す概念である。



2. 大金持ちになりたい

将来になりたい職業や身分として第1位に上がったのは「大金持ち」であり、男子の8割、女子の7割がなりたいたいと答えている。(図1)

2位以下では男子が「社長、総理大臣、科学者」と、なかなかの意欲を示している。

3. どのくらいがんばっているか

現在の勉強ぶりについては、ものすごくがんばっている者6%、かなりがんばっている者が25%。(図4)



4. まだもつとがんばれる

現在の自分の勉強ぶりをふり返って、「まだいくらでもできる」者は24%、「まだわりとできる」者は39%とかなりの余裕である。(図5)

5. 好きな教科

男子は体育、図工、理科、家庭科、女子は家庭科、体育、図工、音楽が上位の4つ。全体としていわゆる主要4教科はあまり好かれておらず、技能教科に人気がある。家庭科が上位に上がってきているのも最近の傾向である。(図8)



6. 予想よりテストが悪かったとき

「次のテスト勉強はがんばろう」が7割、「とてもくやしい」が6割で、「あきらめる」2割、「運が悪かった」2割を大きく上回り、やる気は旺盛である。(図17) そして「くやしい」気持ちも学年と共に増加していく。



7. 熱中していること

全体の8割前後が今、熱中している対象を持っており(図23)、その種類は多様である。しかしそれが「おとなになったときとても役立つ」と思っている子は2～3割である。(図26)



8. 成績と自己像

子どもたちの成績を5つに分けて比較すると、成績のよいグループほど自己像が明るい。ただし成績のひどく悪い子はかえって中の上群くらいの明るさを示しているのはなぜだろう。(図28)



9. 成績と職業的達成

成績のよい子は何にでも野心を示し、悪い子はすべての職業的達成に対して意欲を示さない。(表2)

●調査概要

1. 調査主題 「やる気」
2. 調査視点 子どもたちが、日々の生活の中で熱中し、やる気をもって臨んでいることは何であろうか。勉強に限らず、係活動や

掃除の時間にまで、視点を広げ多方面から考案してみたい。

3. 調査項目 好きな科目、嫌いな科目、授業中の態度、係活動について、掃除について、今、熱中していること、もっと勉強をがんばられるか、将来、何になりたいか、いまだ

10. 成績と努力

成績のよい子の方が悪い子より「ものすごくがんばっている」と言っているが(表3)、にもかかわらず「まだもっとやれる」と思う者の割合も多い。(表4)

11. 成績と希望する成績

成績上位群は他をひき離して「1番になりたい」とする者がどの教科でも多い。しかし下位群は中の上群と同じくらい「1番になりたい」子が多いのはなぜだろう。(表6)

12. 成績と学習態度

成績のよい子は授業中も家でも、積極的な態度で学習している。(表8、表9、表10)



13. 成績と係活動など

勉強と同じく、係活動や掃除当番などに対しても成績のよい者の方が積極的な構えをもっている。(表11)

れくらい勉強をがんばっているか。

- 4. 調査時期 昭和63年2月～3月
- 5. 調査対象 東京都内の小学4・5・6年生
- 6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査

7. サンプル数 (人)

学年/性	男子	女子	計
4年	113	99	212
5年	152	178	330
6年	257	223	480
計	522	500	1,022



はじめに

やる気——心理学で言う達成動機の強さに支えられた行動は、かつて日本人の得意技だった。しかし日本が経済大国の仲間入りをするようになった現在、日本人はかつてよりハングリー精神を失ってひ弱でかつ怠惰になったのでは、と指摘する人びともある。しかし子どもたち、とくに夜遅く塾帰りらしい小学生が電車から降りてくる姿を見たりすると、受験競争に関する限り子どもたちの間では、どの時代よりも「やる気」が駆り立てられている不幸な時代という気もする。

本レポートは、小学生の「やる気」を必ずしも勉強に限らず、多様な側面から探ってみようとするものである。調査が行われたのは昭和63年2～3月。対象は東京の小学4、5、6年生1,022名であった。

1. 勉強をめぐって



🍌🍌 将来なりたいもの 🍌🍌

心理学で個人の達成動機を測定しようとする場合に、「職業的達成」への野心を手がかりとして用いることがある。それにならってまず子どもたちが将来「なりたい職業（身分）」をたずねてみた。

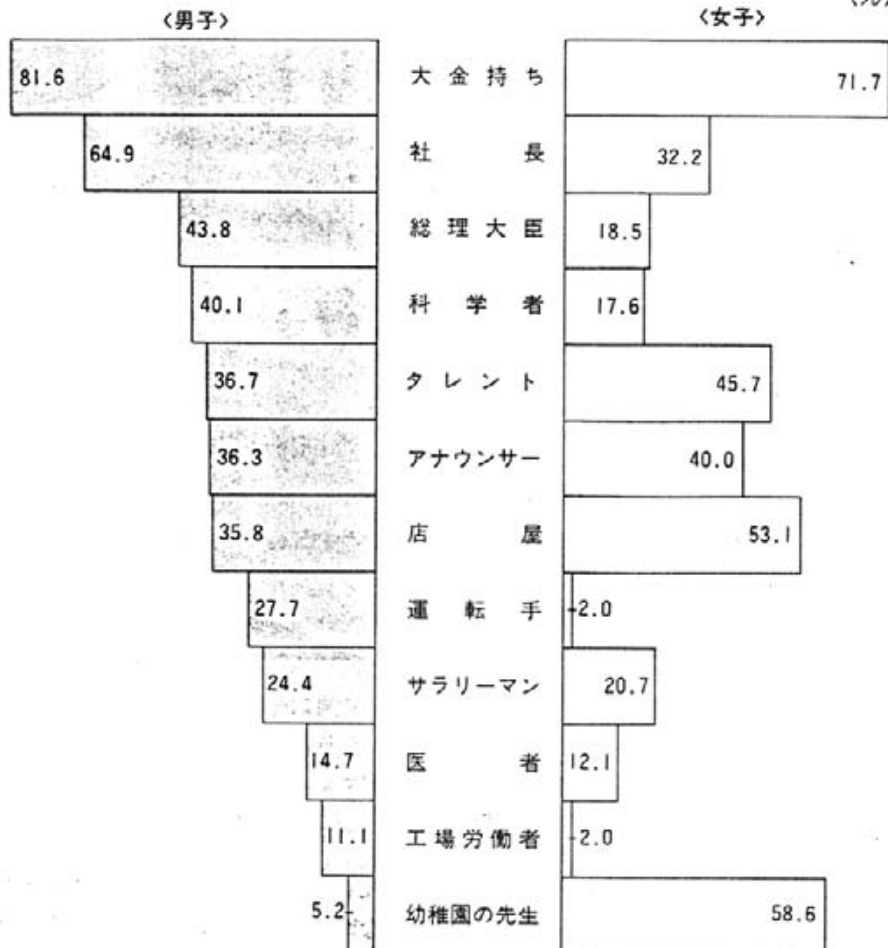
図1によれば、女子も男子も「大金持ち」が第1位。男子の8割、女子の7割がこれを望んでいるが、お金さえあれば何でも手に入る現代を考えると、子どもたちの希望は当然という気もするが、何やら興ざめという気もしないではない。男子は2位が「社長」、これも金持ちと同じカテゴリーに属する職業である。3位の「総理大臣」はこれまでになかった珍しい反応である。調査時期は竹下総理

が就任して3か月。とくに話題を提供した人でもなかったと思うのだが、いつの間にか総理一般へのイメージアップが生じていたのだろうか。

次に4位は「科学者」で、この辺まではかなりビッグな、またはなるのが難しい達成が並んでいる。もっとも女子は男子と大きく違った反応をしている。1位は「大金持ち」でこれは男子と同じ。しかし2位が「幼稚園の先生」3位が「お店屋さん」4位が「タレント」と、達成動機としては男子に比べて差がある感じである。この差は何からくるものだろう。

図1 将来なりたいもの

「とても+できればなりたい」割合 (%)



🍊 自己像 🍊

次に図2、図3は大まかな自己像である。成績については全体としてやや「得意」の方に偏っているが(図2)、巻末の集計表によると、「わりと・とても得意」な者は4年から6年にかけて23%、22%、14%と減少傾向を示し

ており、必ずしも明るいデータではない。これに比べると図3に示したように、「明るく、友人が多く、スポーツが得意」の方がより鮮明な自己像を形作っていることがわかる。

図2 現在の成績(全体)

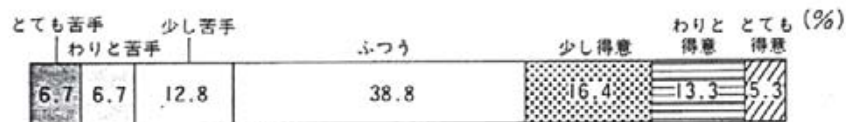
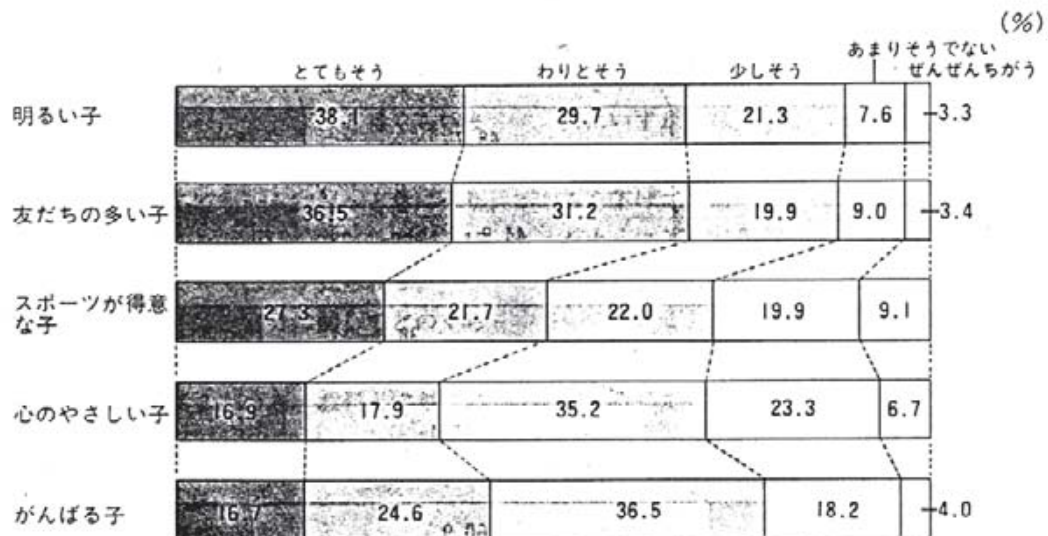


図3 自分について(全体)



🍌🍌 がんばって勉強しているか 🍌

さてその成績を生み出している「がんばりぶり」だが、図4に示したように全体としては「あまり・ぜんぜん」がんばっていない者は20%、「ものすごく・かなり」がんばっている者31%と、子どもたちの自己評価は「がんばっている」方に偏っている。しかし巻末の集計表によれば、これも学年を追うにつれて39%、32%、28%と減少している。息切れ傾向の表れなのだろうか。とくに女子にその傾向が大きい。

図5はこれ以上もっとがんばって勉強できるかを、たずねたものだ。しかし全体としてはまだかなりゆとりのある感じである。4分の1が「まだいくらでもがんばれる」と言っており、「まだわりとがんばれる」子も4割。逆に「もうやれるだけやっている」子は6%に過ぎない。現在かなりがんばっているが、まだもっとがんばれそうだ、ということになる。子どもたちは勉強に関する限り、相当なやる気を持ち主とみてよさそうだ。

図4 今ののくらいがんばって勉強しているか

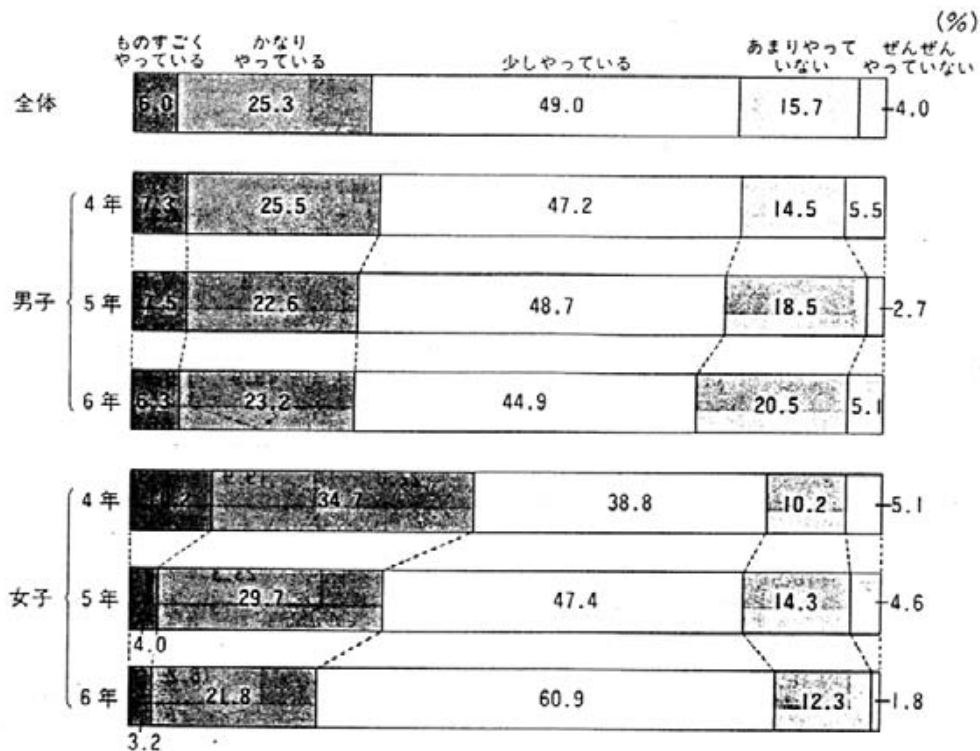
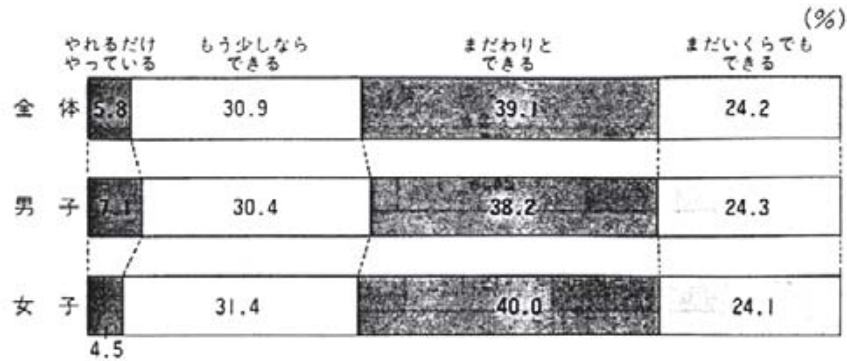


図5 まだもつとがんばって勉強できるか



🍌🍌 どのくらいまで達成できるか 🍌🍌

ではそのゆとりの部分だが、一生懸命がんばったら自分はどのくらいの成績がとれると子どもは考えているのだろうか。図6が示すように、1、2番になれると思っている子は10%、4、5番が12%と、5番までに22%の子が入っている。実際この範囲に入る子は40人のクラスなら5人、つまり12.5%なのだから、いつも何人かは不本意な自分を嘆いていることになる。しかし図によれば、5番くらいまでには、という自信の持ち主は男子では5年から6年にかけて27%から20%へと急にへり、女子は4年から6年にかけて27%、22%、15%と徐々にへっていく様子が見られる。

では子どもたちは、自分に関してどのくらいの成績を望んでいるのだろうか。図7は、5～6番以内の希望者の割合を、教科と学年別に示してある。まず目につくのは、いわゆる主要

4教科より、技能教科の方がむしろ達成欲求が強い点で、とくに女子にその傾向が見られる。男子はとくに体育に強い達成を望んでおり、女子は体育、音楽、家庭科、図工と、いずれも4教科より高い数値が見いだされる。図1と同じく、女子に「難しい対象」への達成欲求が低い傾向が気になるところである。

もう一つの特徴は、これらの数値が学年と共にいずれも減少していることである。図6でも見られたように、学年と共に子どもが望みを下げていく様子がわかる。図4、5で見たように子どもたちは「けっこうがんばっているが、まだ余力がある」とは言っているものの、いくら努力しても思うようには成績が上がらない現実に、少しずつ意欲を低下させているのであろう。

図6 がんばったらクラスでどのくらいになれそうか

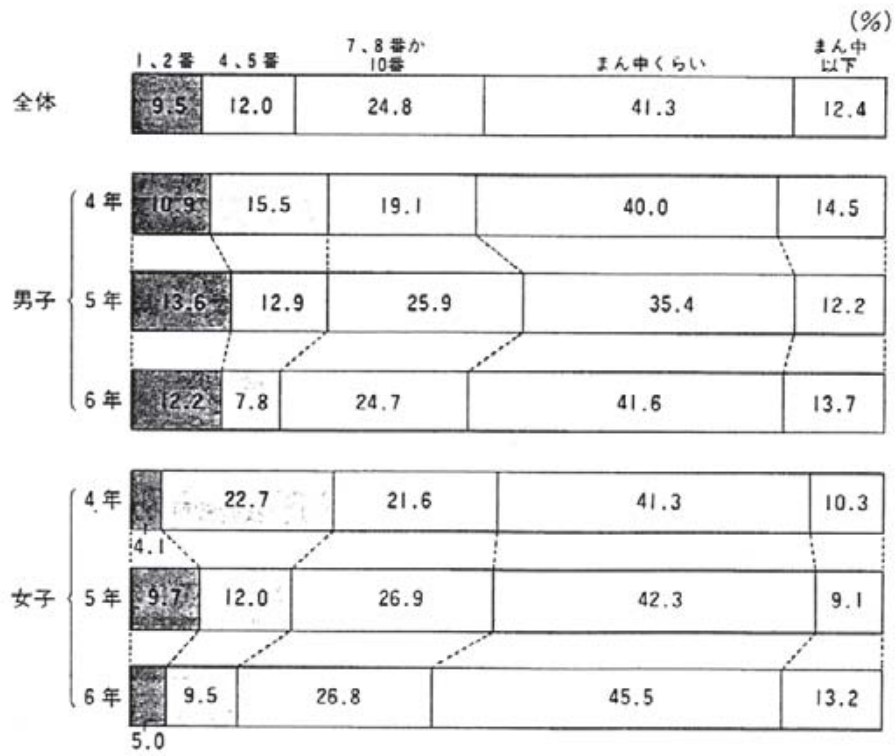
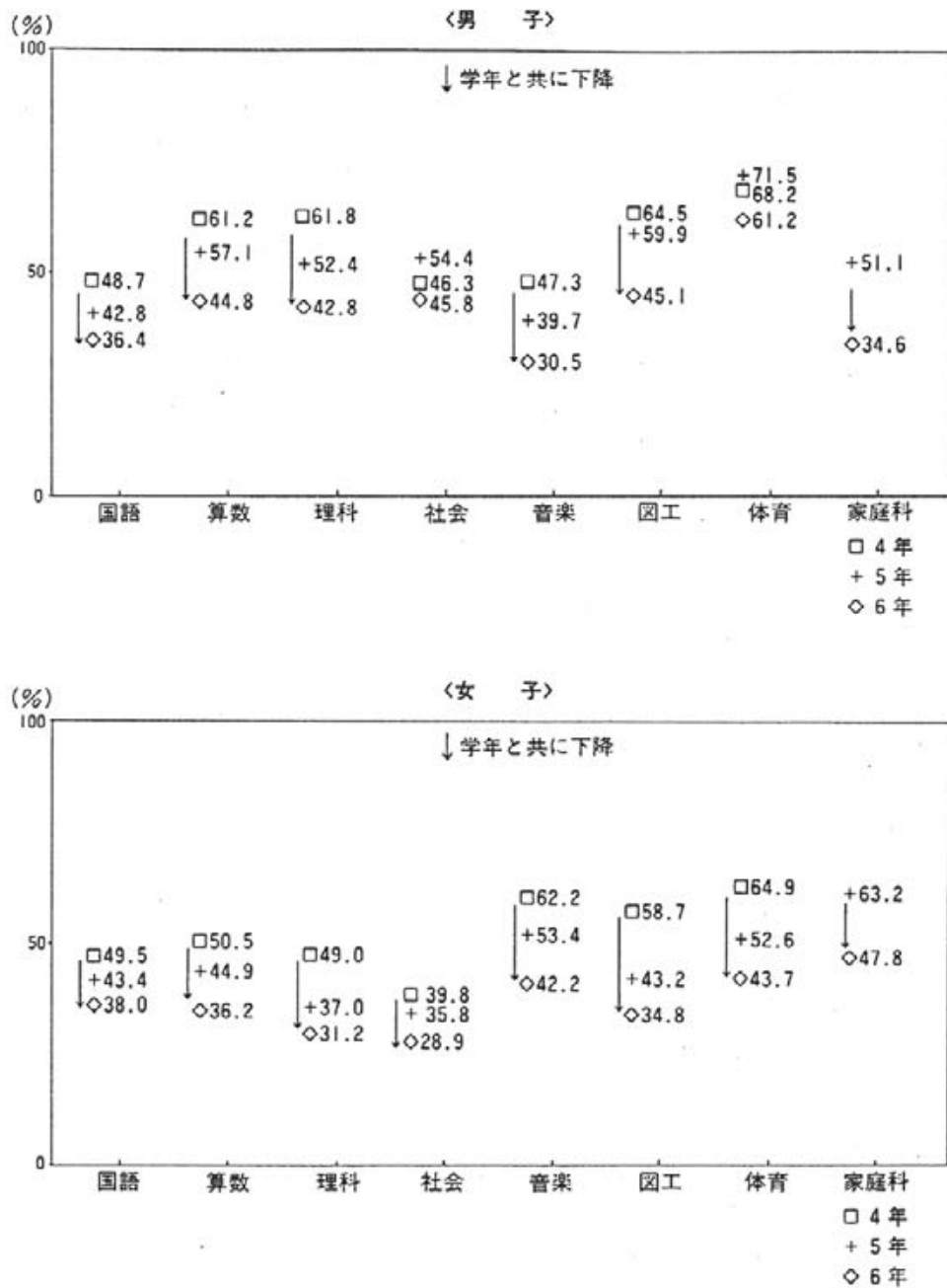


図7 クラスでどのくらいの成績をとりたいか(1番、5～6番に)



2. どのくらい努力しているか



だれにでも好きで興味をもてる課題とそうでない課題がある。好きなことにやる気を出してもそれはやる気とは言えないだろう。苦

手なこと、嫌いなことに対してこそ、やる気が問われるのだろう。本章ではやる気のこうした側面に接近してみよう。

🍊好きな教科・きれいな教科🍊

まず子どもたちに好きな教科をたずねてみた。図8に示した結果を並べてみると、

順位	1	2	3	4	5	6	7	8
男子	体育	図工	理科	家庭科	社会	算数	国語	音楽
女子	家庭科	体育	図工	音楽	国語	理科	算数	社会

○印はいわゆる主要4教科

となって、やはり技能教科の方が好まれていることがわかる。しかも図9に示したように女子においては、いくつかの教科で「好き」の数字が学年と共に下がっており、ここにもまた女子の意欲の低下が表れているようで、気がかりである。

図8 好きな教科

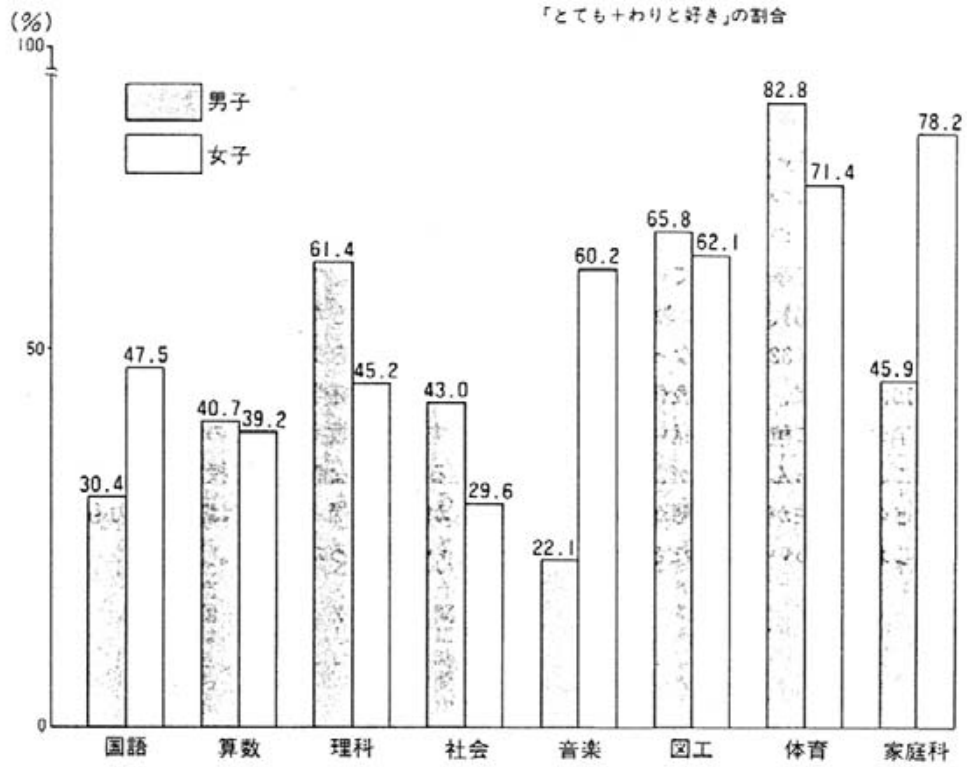
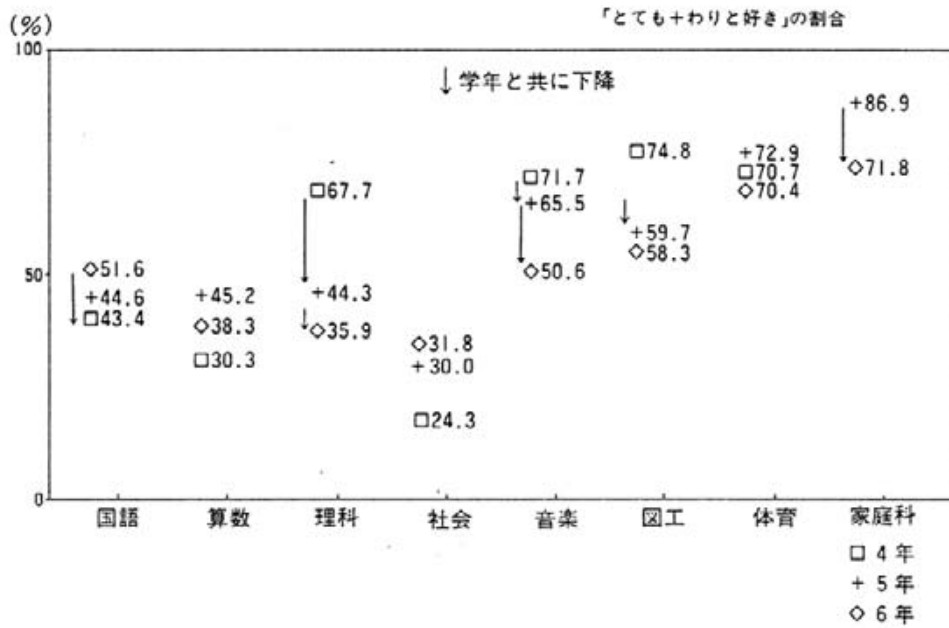


図9 好きな教科×学年(女子)



🍊🍊 学習態度の違い 🍊

次に図10、図11は、4教科のうちで好きな教科と嫌いな教科について、それぞれ教室での学習態度を見たものである。ちなみにここで好きな教科として挙げられているのは理科（32%）算数（29%）、嫌いな教科としては算数（32%）社会（32%）となっている。

まず図10によれば、好きな教科と言えどもそれほど学習態度に積極性が見いだされない。言われたことはきちんとやるが、自分から質問するなどの能動性がない状態が特徴的である。しかしおもしろいのはそれと並べた嫌い

な教科についても、全体として数値は低下するものの、思ったほどの低下ぶりではない点だ。ここでも言われたことは一応きちんとやっている。つまり教科の好き嫌いにかかわらず、子どもたちはやや受身ではあるががんばって授業を受けているのだろう。

では家庭学習はどうか。図12、図13を比較すると、教室場面での学習よりは差が見られる。嫌いな教科でも授業中は何とかがんばるが、家に帰ってまではその努力も続かないというところだろうか。

図10 好きな教科の授業中

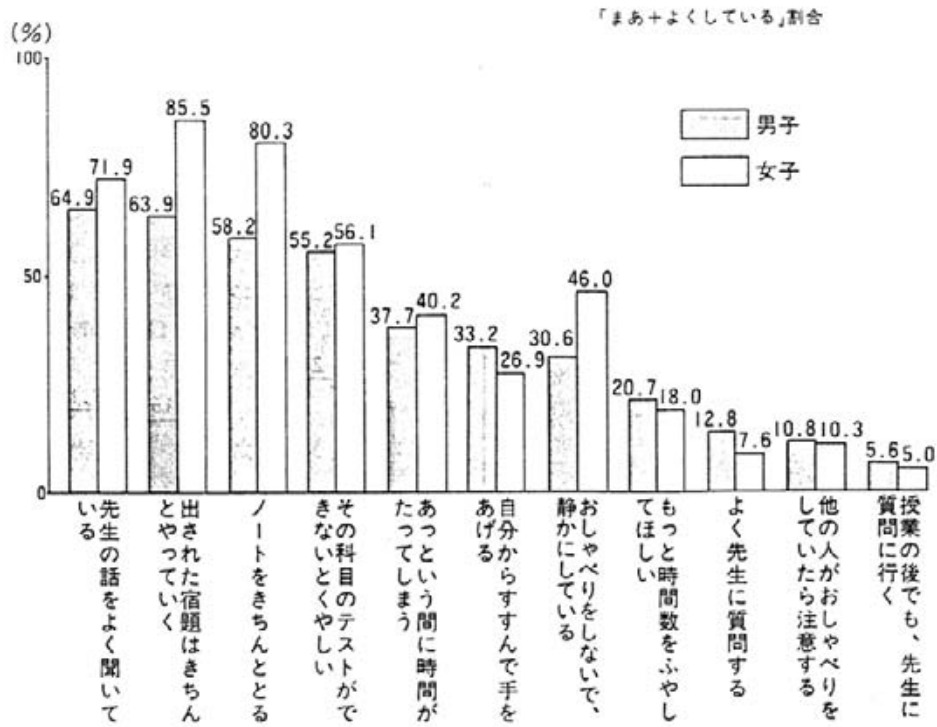


図11 苦手な教科の授業中

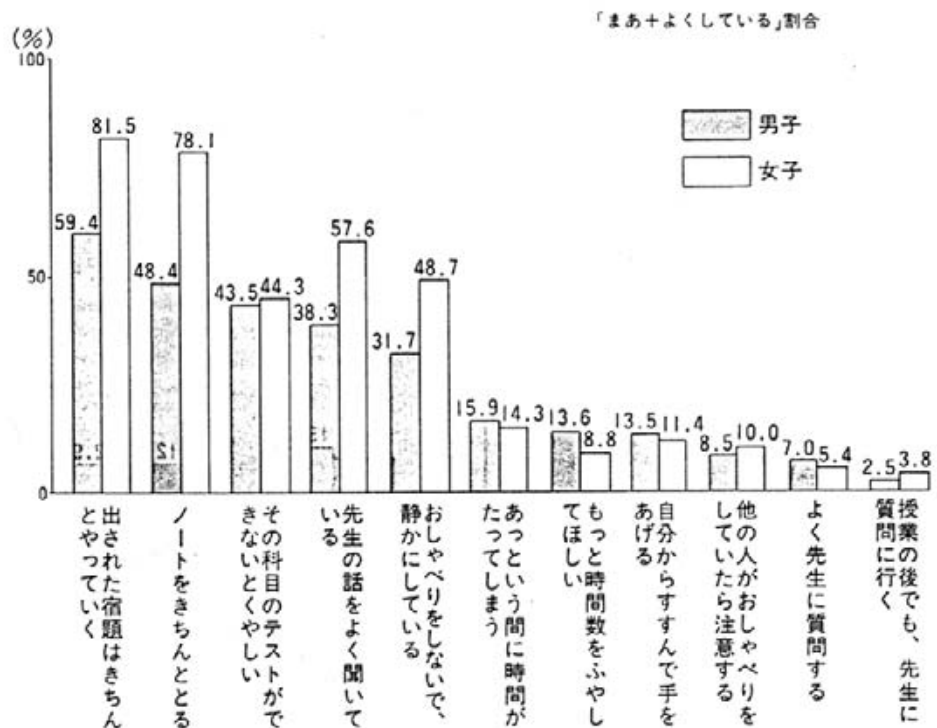


図12 好きな教科の家庭学習の様子

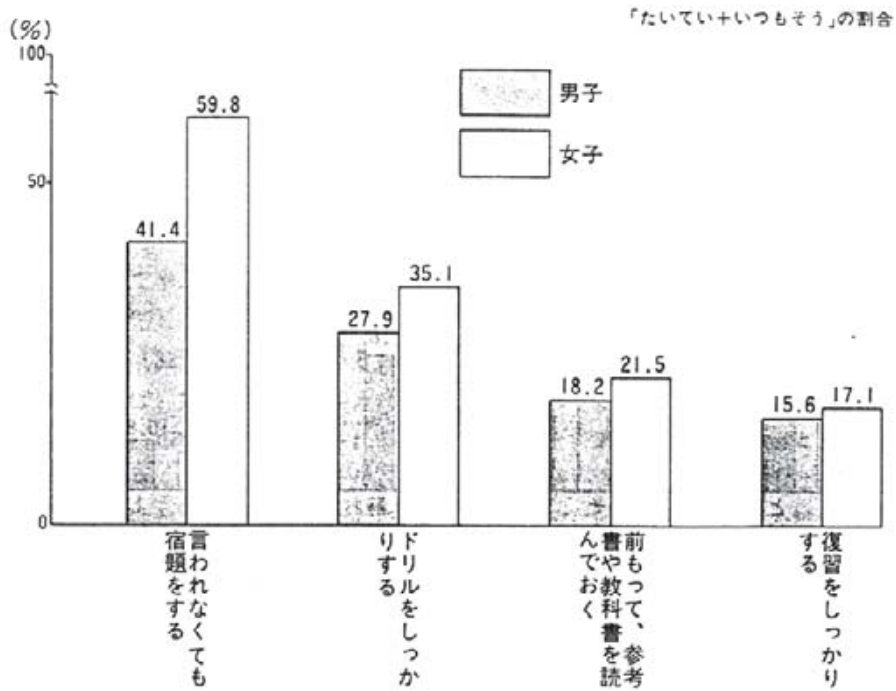
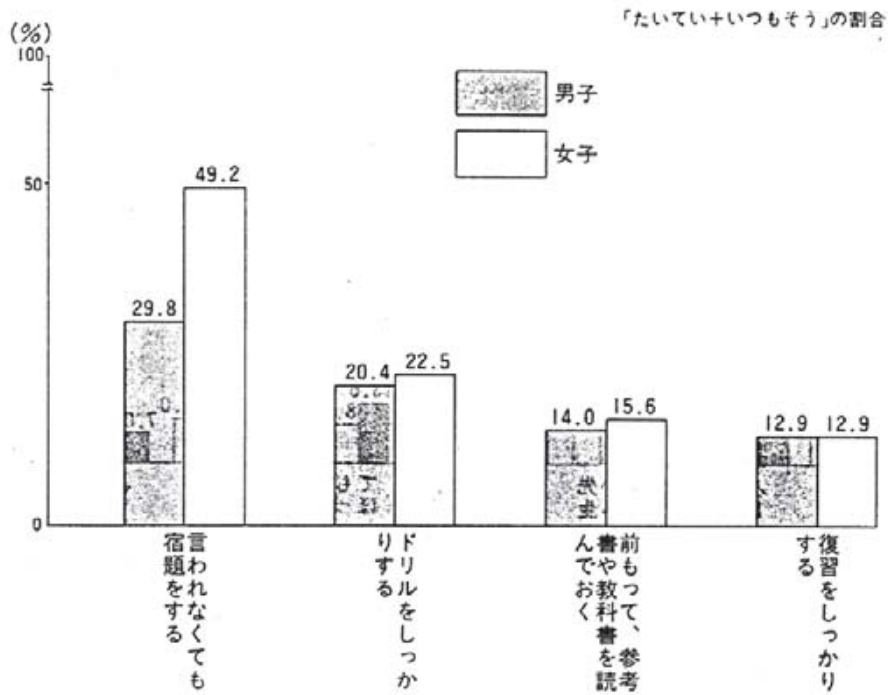


図13 苦手な教科の家庭学習の様子



🍊🍊 係と掃除 🍊

勉強を離れて、学校でのその他の活動についてのやる気はどうか。

図14はクラスでの係活動の様子である。8割近くがまあなりたいた係だったと言っている割には、仕事ぶりはいまひとつのようだ。進んでやっている者より「他の人くらいにやっている」者が格段に多い。

図15は掃除に対する態度である。全体とし

て女子より男子の方が掃除を嫌っており、家より教室の掃除の方がより嫌われているのはなぜだろう。したがって図16に示したように、掃除はおしゃべりしながら、(とくに男子は)すみっこの方は手抜きしながら行い、先生がいないと遊んでしまう、という状態が見られることになる。

図14 クラスでの係について

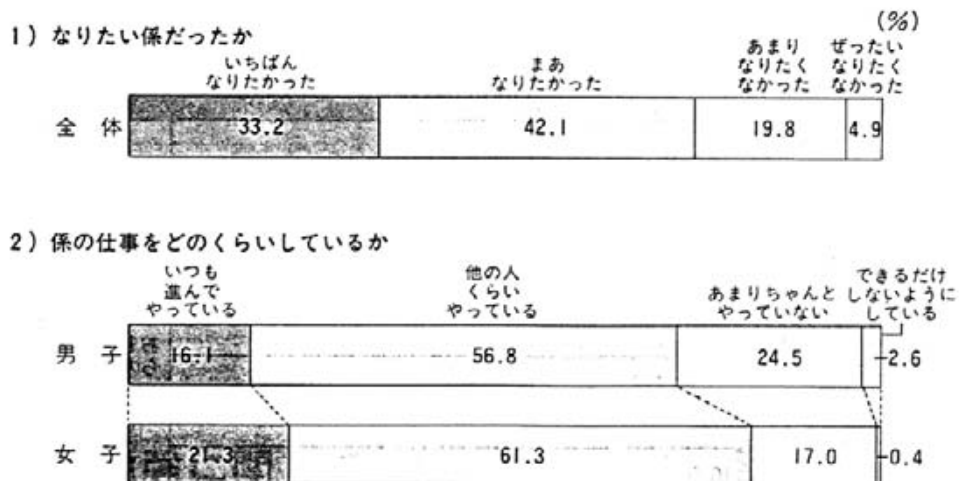


図15 掃除をするのが好きか

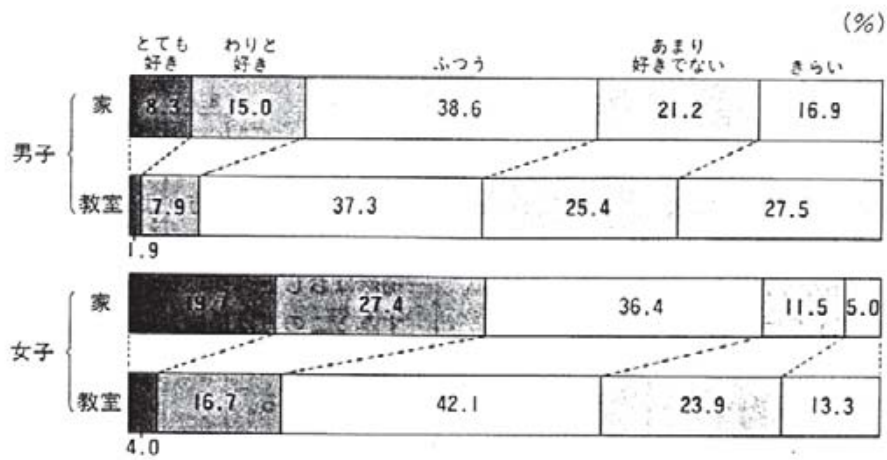
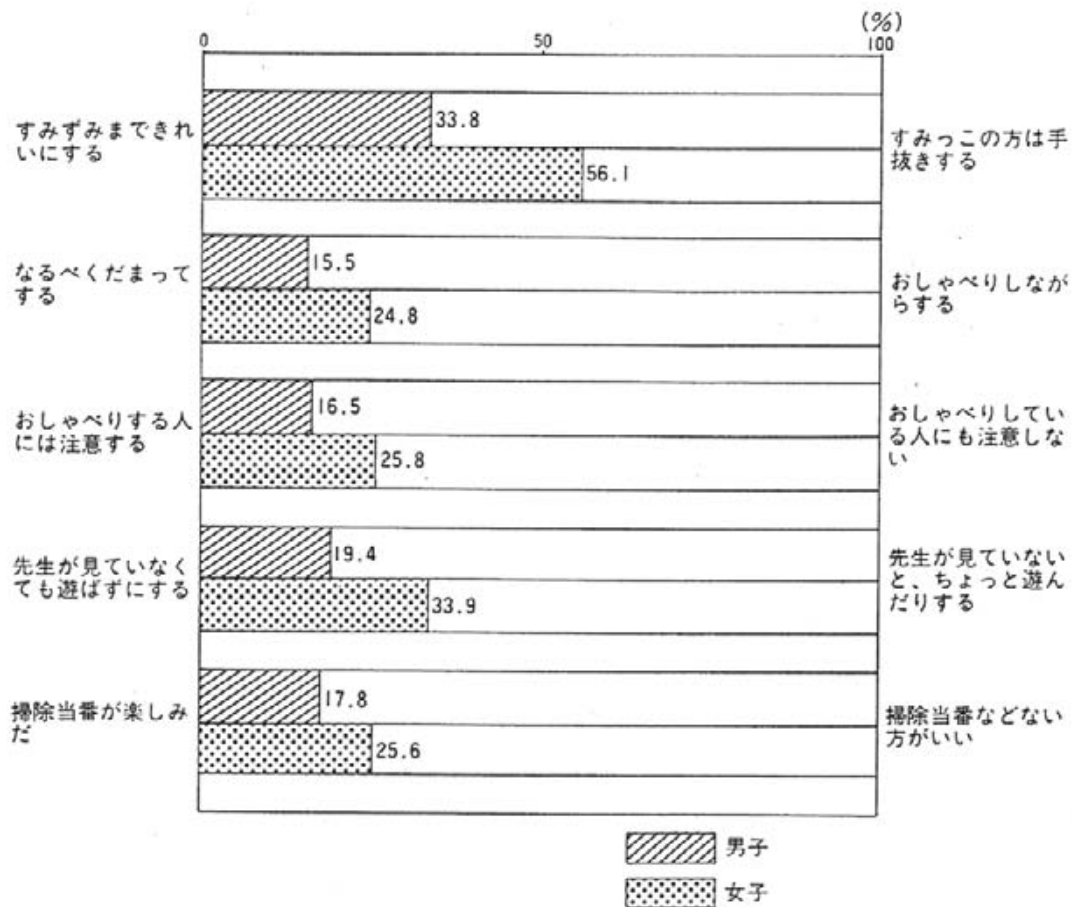


図16 掃除当番をするときの態度



3. あきらめるか、がんばるか



やる気は何らかのフラストレーション場面で姿を現すものであろう。順調に行っているときは、この力を働かせる必要もないからである。

そこで図17から図22までは、各種の挫折やフラストレーション場面を設定して、いつもどうしているか（あきらめるか、がんばるか）をたずねたものである。

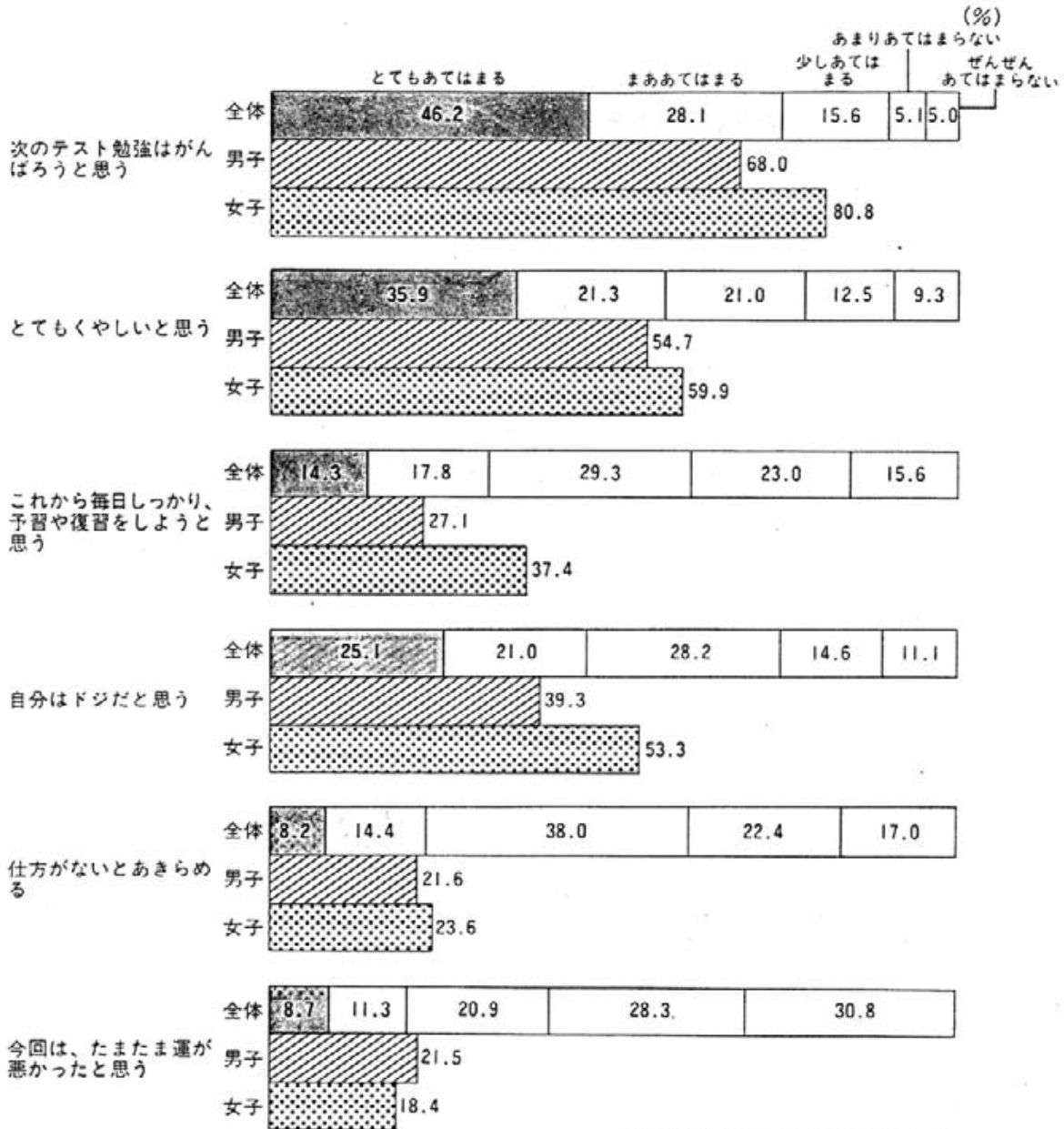
🍪🍪 勉強に関して 🍪

まず図17はいつもよりテストの成績が悪かったときの子どもたちの反応である。「あきらめる（まああてはまるを含めて）」23%、「運が悪かった」（20%）と比べると、「次はテスト勉強をがんばろう」（74%）、「くやしい」（57%）と、子どもたちの反応にはバネがある。しかも「くやしい」と思う割合は下の表に示したように、学年と共に上昇している。おもしろいのはこれまでの傾向と違って、女子の方がわずかながら男子よりも、くやし

いとか、もっと勉強しようとする気持ち強いことである。小さな挫折には、女子の方がバネの力が強いのだろうか。

次に図18は、家庭学習場面でのやる気である。宿題に関しては、寝ないでもする子は、それほど多くない。下の表を見ると男子は学年と共にへっていき、女子は逆にふえている。女子のきまじめさの表れか。しかし女子は「あきらめる」者も学年と共にふえていき、二極化が見いだされる。

図17 もし、あなたが一生懸命勉強したテストで、自分が思っていたより、20点
 くらいよくない点をとってしまったとき、いつもあなたはどうしますか。

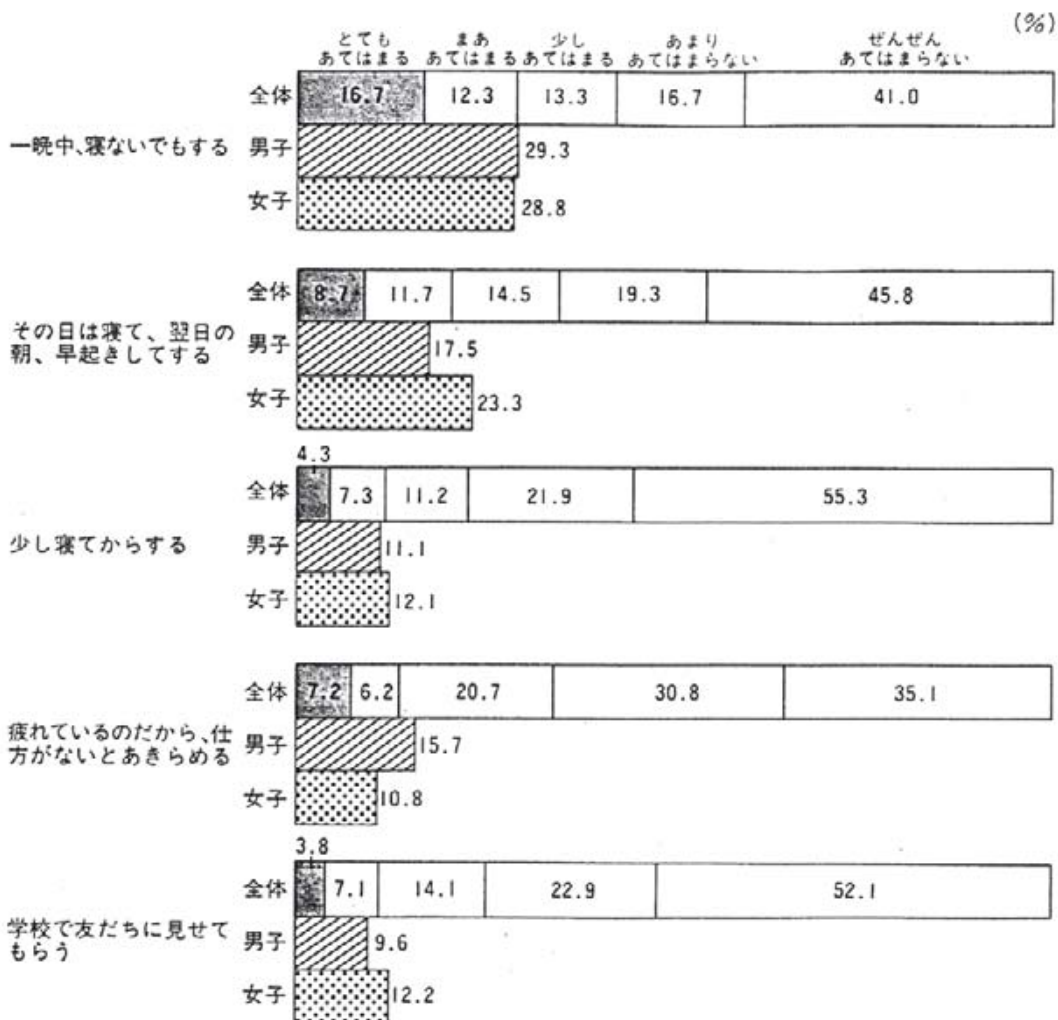


性別数値は「とても+まああてはまる」割合

	4年	5年	6年
男子	40.9	57.5	60.0
女子	45.4	57.6	68.0

「とても+まああてはまる」割合

図18 もし、算数の宿題が10ページあるのに、とても疲れているとき、あなたは
どうしますか。



性別数値は「とても+まああてはまる」割合

		4年	5年	6年
寝ないでもする	男子	37.8	27.7	25.7
	女子	17.4	30.5	33.1
あきらめる	男子	14.4	20.4	13.6
	女子	6.1	6.7	18.6

「とても+まああてはまる」割合

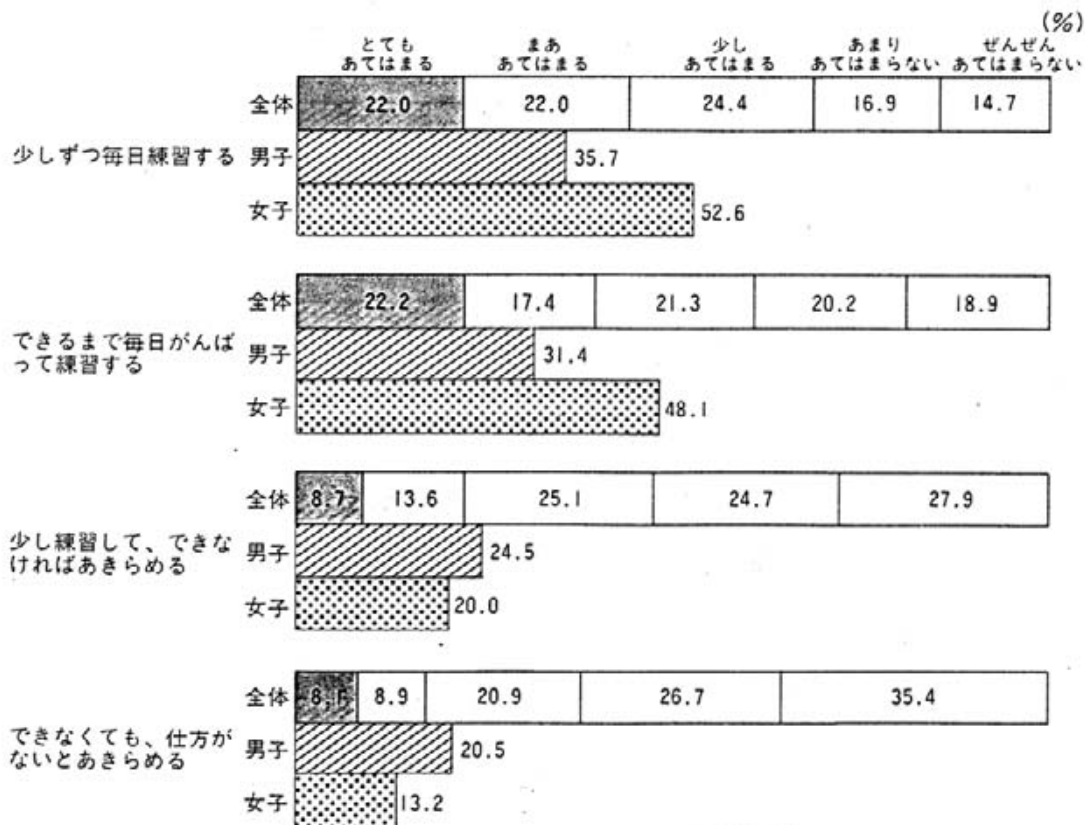
🍌 運動能力について 🍌

次に図19は、体育のテストについてである。逆上がりができない場合にも、やはり「あきらめる」子は少なく、毎日少しずつ練習する子の方が多い。しかし下の表のように、学年を追うにつれて、こうした意欲はへってはい

く。

図20は、遊び場面でドッジボールができない場合である。図19の体育のテストよりも、この場合の方がやる気が示されているのはおもしろい。

図19 もし、あなたが鉄棒の逆上がりができないのに、次の体育の時間にテストがあるとしたら、どうしますか。

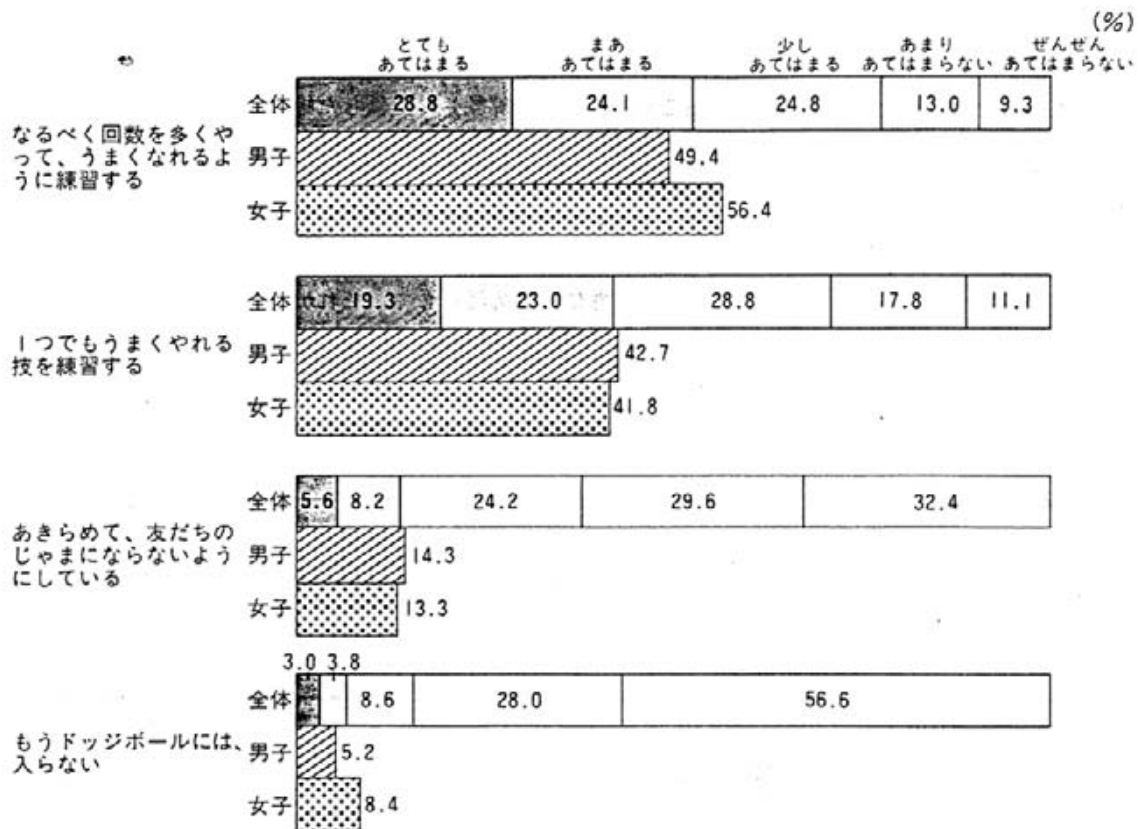


性別数値は「ととも+まああてはまる」割合

		4年	5年	6年
できるまで毎日練習する	男子	39.1	35.1	25.8
	女子	64.3	42.3	45.8

「ととも+まああてはまる」割合

図20 もし、仲良しの友だちがみんなじょうずにドッジボールができて、自分だけうまくできないとき、あなたはどうしますか。



性別数値は「とても+まああてはまる」割合

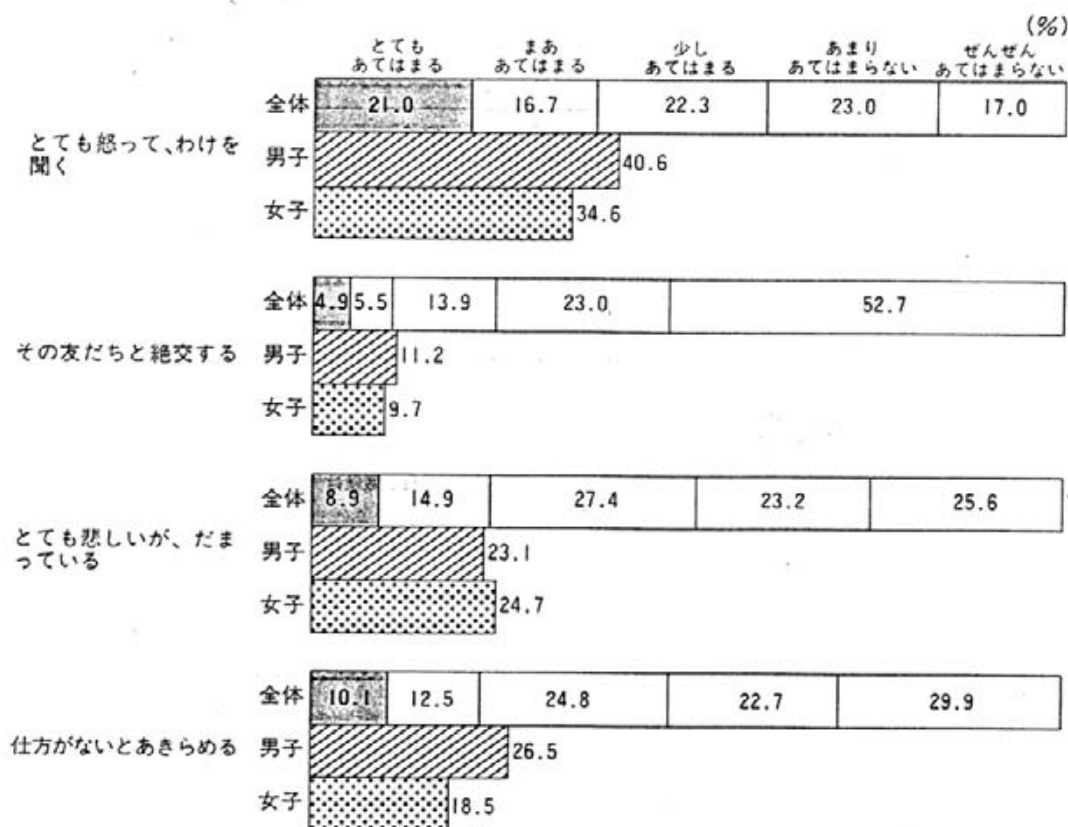
🍊 友だちとの間で 🍊

図21は友人との間の信頼関係が失われた場面である。通常のやる気とは少し違うニュアンスだが、こんな場合もカッとしてムキになるかどうかを見てみよう。図が示すように、「怒ってわけを聞く」が「まああてはまる」も含めて41%と、男子と女子では男子の方が積極的である。また図22は掃除の場面である。サボっている友人に対しては男子の方が許容

的であり、「いっしょになって遊んでしまう」という反応が多いのはおもしろい。これに対して女子は「注意する」「自分だけは一生懸命やる」とまじめである。

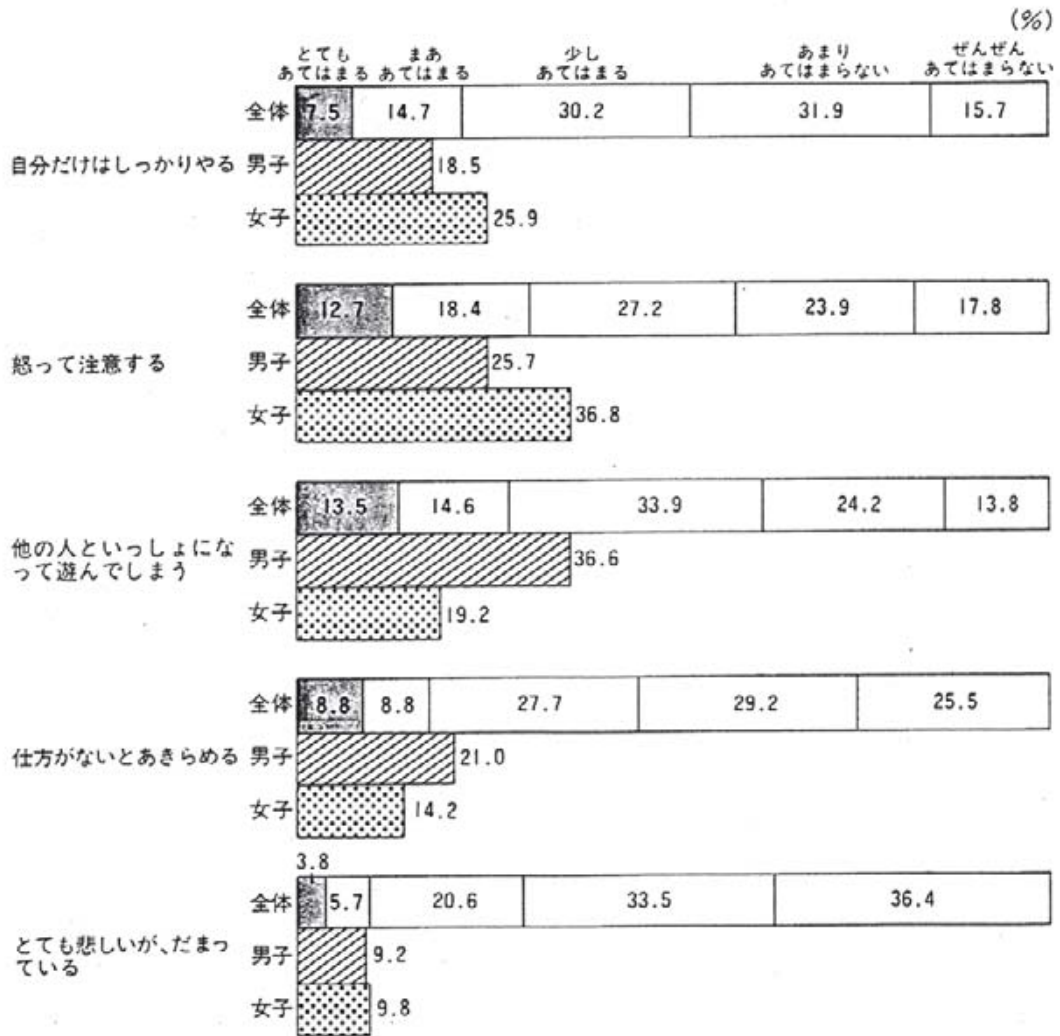
以上6つの場面での子どもの反応の仕方を見てきたわけだが、とくにテスト（この場合は算数）に関係した場面での子どもたちのやる気が盛んなのが印象的である。

図21 もし、「内緒にしてね」と友だちに秘密の話をして、それが他の人にも知られてしまったら、どうしますか。



性別数値は「とても+まああてはまる」割合

図22 もし、掃除の時間に、自分は一生懸命しているのに、友だちがふざけていたら、どうしますか。



性別数値は「とても+まああてはまる」割合

4. 今、熱中していること



やる気と言うと、おとなたちはとかく学習と関係した場面で意欲的であることをイメージする傾向にある。しかしやる気とは、もっと広い対象に関して用いられる概念のほすで

ある。そこで本章では、子どもたちに「今、熱中していること」をたずねた結果を示すことにした。

🍓🍓 何に熱中しているか 🍓

まず図23は、子どもたちが「熱中していることがある」と答えた割合である。男子と女子では熱中の対象をもつ者は男子に多いが、しかし図が示すようにその割合は4年87%、5年84%、6年77%と、少しずつではあるが確実にへっている。これに対して女子はほとんど変化がない。しかし7割から8割の子どもが、とにかく何らかの熱中の対象を持っている、と答えたのにはややほっとさせられる。

その対象を自由記述の中からひろい出したのが巻末の資料であり、表1にはそのベスト

5をまとめた。(女子はバラツキが大きいのでまとめなかった。)

資料に示されている熱中の対象は本当に種々である。多いのは何かを集めること(コレクション)のようだが、他にもスポーツやゲーム、中には「勉強に関すること」やゴルフ、パソコン、エアガン、貯金、バイクの練習、音楽鑑賞(古典)、釣り、野鳥観察などおとなのすることにも手を出している子もいる。また女子もコレクションが1位。男子と違うのは、スポーツやゲームではなくアイドルへ

の関心（光GENJIの佐藤敦啓など）が見られること、また長電話、占い、手芸、料理、部屋の模様替えなどの女の子的な趣味も出てきて

いる。

いずれにせよ、こうした面でのやる気とその対象の多彩さは、なかなかのものである。

図23 熱中していることがあるか

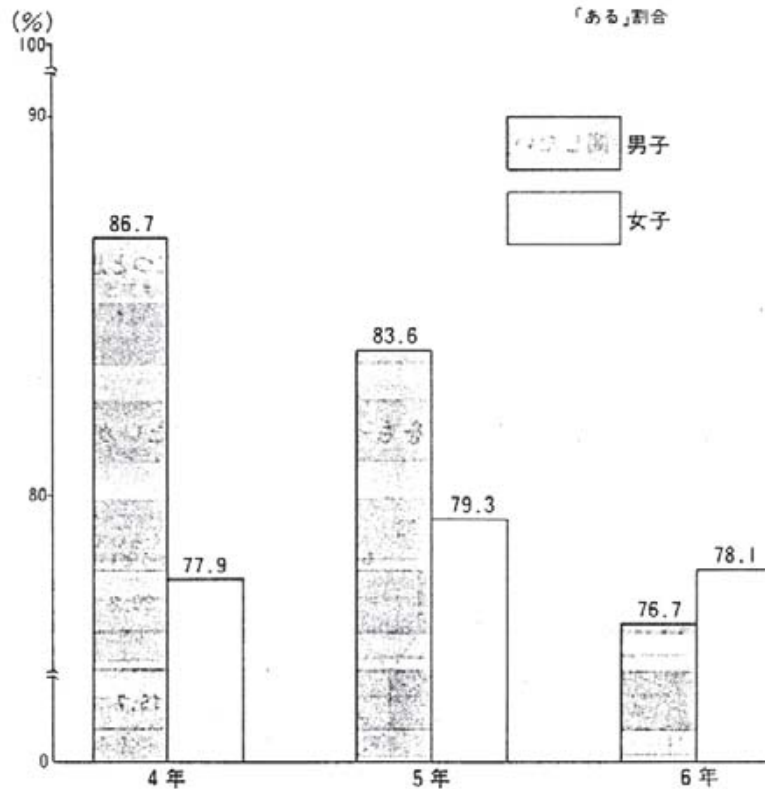


表1 熱中していること(ベスト5)

<4年 男子> 113名		<5年 男子> 152名		<6年 男子> 257名	
1 シール集め	51 (45.1%)	1 野球	61 (40.1%)	1 サッカー	61 (23.7%)
2 サッカー	48 (42.5%)	2 サッカー	58 (38.2%)	2 ファミコン	59 (23.0%)
3 ファミコン	39 (34.5%)	3 ファミコン	50 (32.9%)	3 野球	52 (20.2%)
4 野球	25 (22.1%)	4 シール集め	48 (31.6%)	4 シール集め	17 (6.6%)
5 遊ぶこと	4 (3.5%)	5 ラジコン	15 (9.9%)	5 スケートボード	16 (6.2%)

🍌🍌 どのくらい熱中しているか 🍌

さてこうした熱中を、子どもたちはいつまで続くと思っているのだろうか。そしてそれはおとなになったとき、役立つと思っているのだろうか。

まず図24によれば、それらの熱中の対象を3分の2が「もっとうんと長時間したい」「もう少ししたい」と言っている。熱中していれば時間は無限に欲しくなるのが当然とはいくものの、とかく忙しい子どもたちのフラストレーションが伝わってくる数字ではなからう

か。

そして図25が示すように子どもたちは、この熱中がそうすぐに冷めるとは思っていない。かなりの熱の入れ方のようである。また図26が示すように、それがおとなになったときに役立つかどうかをたずねてみると、「とても役に立つ」と思っている子は4分の1だが、「少し役に立つ」を合わせると、半数以上がそれを何かの役に立つと思っ

図24 熱中していることをもっと長い時間したいか

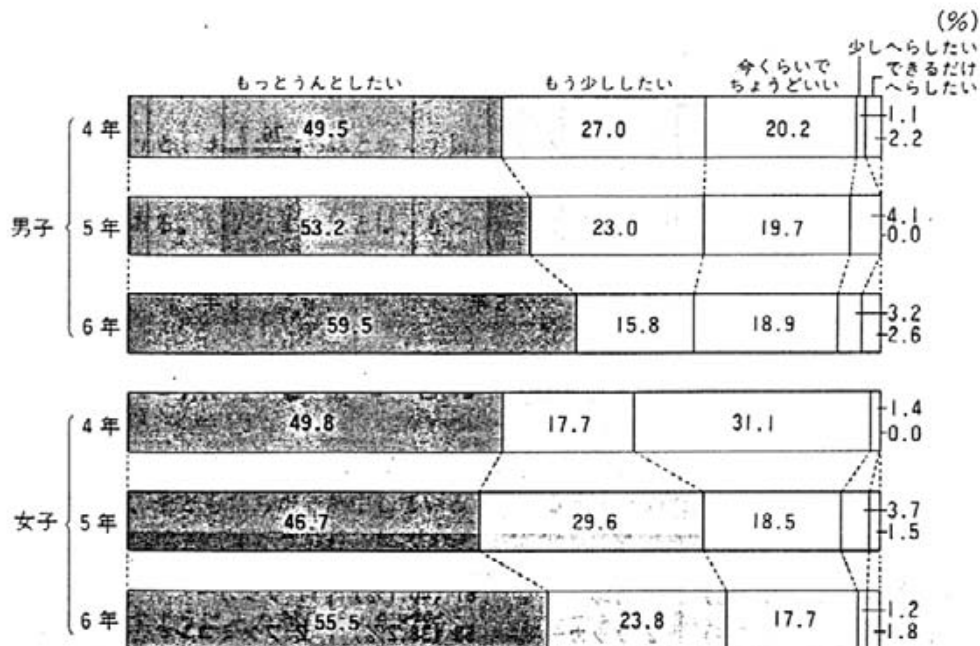


図25 いつまで続くと思うか

1か月以内	3か月	半年	1年	中学生	高校生	おとなになっても
5.2	7.9	6.6	11.6	29.2	15.8	23.7
68.7						

(%)

図26 おとなになったとき役立つと思うか

		とても役に立つ	少し役に立つ	あまり役に立たない	ぜんぜん役に立たない
男子	4年	20.2	33.8	25.8	20.2
	5年	22.1	27.9	23.8	26.2
	6年	28.0	29.2	20.6	22.2
女子	4年	23.0	36.5	32.4	8.1
	5年	19.7	34.3	22.6	23.4
	6年	30.5	31.1	23.2	15.2

(%)

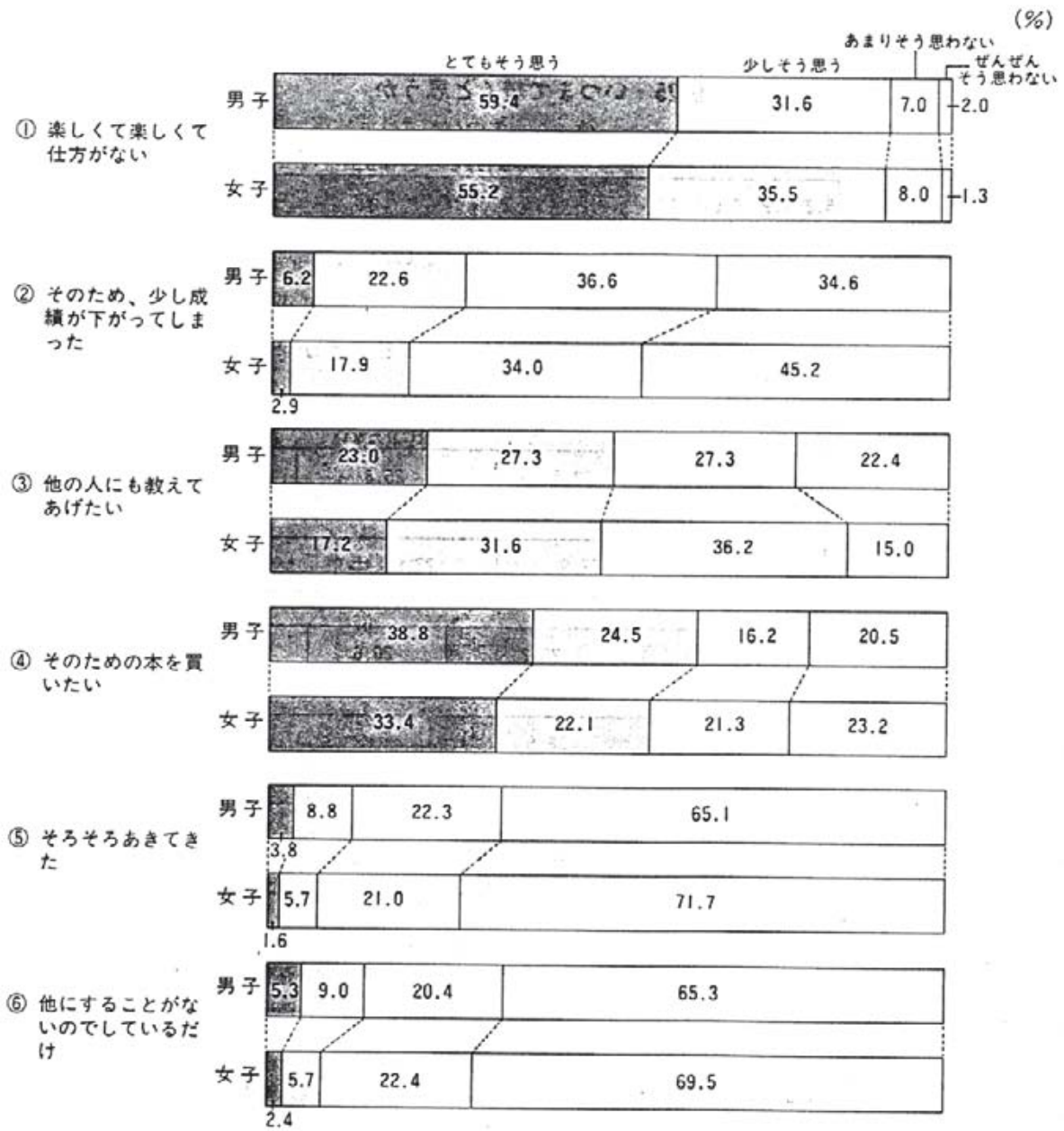
🍓🍓 その熱中ぶり 🍓🍓

図27は今熱中している状態を、改めていくつかの角度から見てみたものだ。

まず①に示したようにおよそ6割の子が「とても楽しくて仕方がない」とっており、⑤⑥に示したように、「あきてきた」「他にすることがないからしているだけ」といった反応はほとんど見られない。それによって多少と

も成績が下がってきたと思っている者も4分の1に過ぎないが、ただその熱中していることを他人にも教えてあげたいと思う者は半分くらい。それだけ熱中しているなら当然他人にもっと教えたい、やらせたいと思うのが子どもという気もするのだが、この辺は少し拍子ぬけの感もある。

図27 熱中していることについての気持ち



5. 成績のよい子・悪い子



能力のある人間でありたい、成績のよい子でありたいとする願いは万人共通のものだろう。しかし世の中はこの点について極めて不公平にできている。やる気のレポートのしめ

くくりとして、いわゆる成績のよい子と悪い子とがやる気に関してどう違うのかを明らかにし、やる気の効用を探ってみよう。

🍌🍌 自己像とアスピレーション 🍌🍌

まず図28は成績別に見た子どもの自己像だ（ここでの成績段階は、上5.3%、中の上29.7%、中38.8%、中の下19.5%、下6.7%の順で分けてある）。学校の勉強が「とても得意」と答えた5%の成績上位者の自己像は他の4群と大きく差をつけてポジティブである。そして中の上から中、中の下と成績が下降するにつれて、自己像は全ての面で暗さを増している。運動能力、社会性、心のやさしさなど成績に何の関係もないはずの側面にまで、成績評価が及んでいるのは見事なほどであり、まこ

とに憂うべきことと言わねばならない。

ただ多少違ったプロフィールは、成績が最下位の7%の子どもたちである。このグループの自己像はなぜか明るくて、中の上群とほぼ同じ位置にある。なぜだろうか。

次に表2は将来つきたい職業との関連である。表が示すのは最大値を示すマル印が全て成績上位群に位置している点だ。つまり成績のよい子はどの職業にも他のグループより「なりたい」者が多い。何でもやってみたい。何にでもなりたい。しかもその数字は2位以下

とかなり差が開いている。これらの結果を総合すると成績上位者（5%）は、好奇心旺盛

でアスピレーションの高い子どもたちということになりそうだ。

図28 自己像×成績

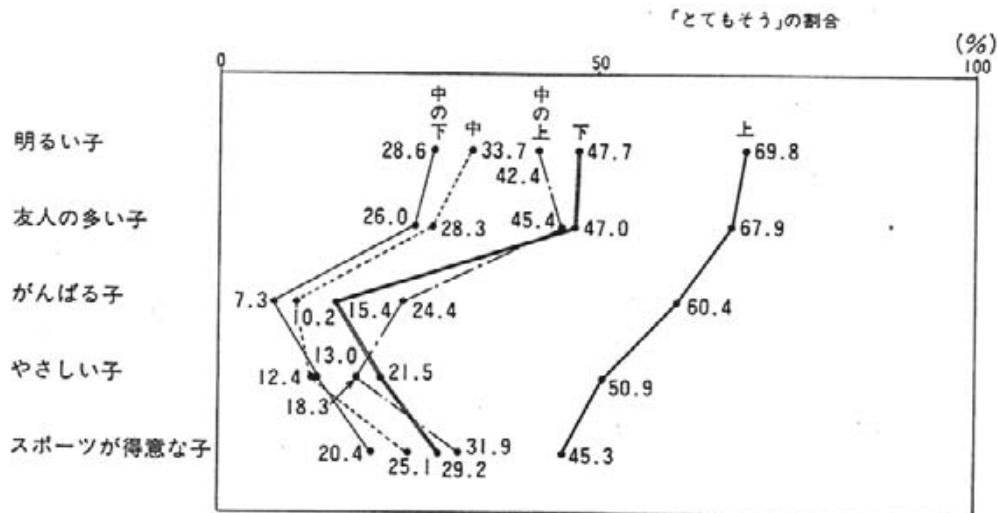


表2 将来つきたい職業×成績

職業	上	中の上	中	中の下	下
大金持ち	62.1	49.3	49.3	51.1	50.0
社長	49.1	24.9	20.0	20.0	20.3
総理大臣	35.8	16.8	14.2	19.5	14.5
科学者	41.5	13.4	7.7	9.0	4.8
タレント	26.4	15.6	14.2	13.7	17.2
アナウンサー	40.4	14.8	6.6	9.7	6.7
店屋	18.9	12.1	9.5	11.5	17.2
運転手	9.4	4.2	4.2	4.2	12.5
サラリーマン	13.2	4.8	2.6	5.8	7.8
医者	18.9	4.1	1.6	3.2	3.1
工場労働者	1.9	1.0	1.6	1.1	1.6
幼稚園の先生	17.0	12.4	12.7	11.1	12.1

○印最大値

🍌🍌 今、どのくらいがんばっているか 🍌🍌

勉強について現在どのくらいがんばっているかを成績ランク別に見たのが表3である。表が示すように上位群には「ものすごくがんばっている」が46%と他を大きく引き離している。5%に入るには並大抵の努力ではすまないであろう。そして表は、成績ランクが下がるにつれて努力も欠きがちなことを示している。「ぜんぜんがんばっていない」とする者は下位群で27%と他と大きくへだたった数字である。「努力しないからできない」という見方はこの表に関する限り当たっているようにも思える。しかし能力的な要因を無視して軽々しく断定してはいけないのはもちろんだろう。

また表4は「今よりもっとがんばれるか」である。おもしろいのは「もうこれ以上はだめ」と言っている者の割合が上位群で21%、次いで2位は下位群の15%で両極化している点だ。しかし全体としては成績のよいグループの方にゆとりがあり、成績が下がるにつれてもうあまりがんばれない、と言っている点だ。気力や精神力（いわゆるやる気）の差なのか、それとも本当のゆとりなのか。

さらに表5は「がんばったら自分はどのくらいの成績がとれそうか」である。これに関しては見事なほど成績との相関が見いだされる。上位群は63%が1、2番になれるだろうと答えているのに、下位群は52%ががんばってもまん中までいかないだろうと答えている。こういう見通しでは、下位群にやる気を期待する方が無理ではなかろうか。

また表6は、本当はどのくらいの成績をとりたいと思っているのかを教科ごとにたずねてみたもので、1番になりたい子の割合を示してある。モーレツなのは上位群で、どの教科も、図工や家庭科ですら5割以上の子が1番になりたいと答えており、最大値は算数の81%となっている。以下成績ランクが下がるにつれて1番になりたい子の割合はへっていくが、おもしろいのは、最も望みが低いのが最小値を示すアンダーラインが集まっている中の下群であることだ。下位群は先に見た図28と同じように、なぜか中の上群と似た数字を示している。

表3 今どのくらいがんばっているか×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
ものすごくがんばっている	46.2	7.5	2.4	0.5	4.5
かなりがんばっている	34.6	40.4	22.8	10.2	7.6
少しがんばっている	15.4	42.9	58.3	55.6	34.8
あまりがんばっていない	1.9	7.5	14.7	29.4	25.8
ぜんぜんがんばっていない	1.9	1.7	1.8	4.3	27.3

○印最大値

表4 まだもっとがんばれるか×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
これ以上はだめ	21.2	4.1	4.0	3.7	15.4
もう少しなら	17.3	25.3	32.3	40.0	38.5
まだわりと	17.3	37.2	44.9	39.5	24.6
いくらでも	44.2	33.4	18.8	16.8	21.5

○印最大値

表5 がんばったらクラスでどのくらいになれるそうか×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
3番、2番	62.8	15.1	1.6	2.1	7.6
4、5番	24.5	25.7	6.8	2.1	1.5
7、8番か10番	5.1	40.0	26.1	9.6	10.6
まん中くらい	5.7	18.2	54.7	64.4	28.8
まん中までいかない	1.9	1.0	10.8	21.8	51.5

○印最大値

表6 どのくらいの成績をとりたいか×成績

(1番になりたい子)

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
国語	71.7	28.8	12.7	6.3	24.2
算数	81.1	37.9	14.7	9.5	25.8
理科	64.2	29.1	15.0	8.5	24.2
社会	60.4	31.1	15.8	10.5	24.2
音楽	60.0	30.7	16.1	12.2	27.3
図工	54.7	31.4	16.9	16.3	33.3
体育	62.3	35.4	25.3	26.8	47.7
家庭科	54.8	31.8	16.3	20.1	30.8

○印最大値

—印最小値

🍓🍓 学習の態度 🍓

成績の上下を決める要因の1つに「授業中の態度」があることが推測される。そこで表8は主要4教科の中で一番好きな授業のときの態度を見たものだ。その前にまずどの教科が好きかをたずねたのが表7である。成績上位と中の上群は算数、他は理科となっている。

さて表8を見よう。ある程度予想される結果だが、自分から進んで手をあげる子の割合ははっきり成績と関連している。例えば成績上位群では「よく手をあげている」子が44%、逆に下位群では「ほとんど手をあげない」子が67%。

次の「先生の話をよく聞いているか」でも似た傾向が見いだされる。成績ランクが下降するにつれて「よく聞いている」子の割合がへっている。

次の「先生によく質問しているか」については全体に質問する子は少ないようだが、それでも下位群の方に「手をあげない」子の割合が多くなっている。また「おしゃべり」「ノートをきちんととる」「宿題をきちんとする」

「テストができないとくやしい」も同様である。

では家での学習態度はどうだろう。表9によれば、宿題へのとりかかりの自発性、予習、復習、ドリルをしっかりやるかどうかなど、全ての項目について、成績との相関が見いだされる。前に見たような授業中の学習態度と同じく家庭学習についても成績の悪い子は消極的である。

ついでに表10は、テストの成績が予想していたより20点も悪かった場合の態度である。

「次のテスト勉強はがんばろう」とする子は、やはり成績のよい群に多く、上位群では75%の子が「とてもそう思う」と答えているのに、中の上群では62%、次いで45%、23%とへっていく。しかし表は省略したが、「宿題が間に合いそうもなかったら」「友人が秘密を守らなかったら」「掃除を友人がサボっていたら」「逆上がりやドッジボールができなかったら」などの場面では、表10ほどの明らかな結果は得られなかった。

表7 一番好きな教科×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
国語	22.6	23.5	21.8	25.7	20.6
算数	58.6	38.8	28.7	12.7	14.3
理科	7.5	19.7	34.9	47.7	46.1
社会	11.3	18.0	14.6	13.9	19.0

○ 印最大値

表8 好きな教科の勉強の態度(成績別)

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
1) 自分から進んで手をあげる					
よくしている	(43.5)	18.4	6.3	1.0	3.0
まあしている	35.8	(26.1)	18.8	11.9	4.5
少ししている	9.4	25.9	23.7	19.2	12.1
あまりしていない	1.9	20.4	(30.9)	(36.3)	13.6
ほとんどしていない	9.4	9.2	20.3	31.6	(66.8)
2) 先生の話をよく聞いている					
よくしている	(47.1)	29.9	16.1	5.7	10.6
まあしている	32.1	(54.7)	(53.3)	(44.3)	(27.3)
少ししている	15.1	11.6	19.5	28.6	22.7
あまりしていない	1.9	3.1	7.8	19.3	25.8
ほとんどしていない	3.8	0.7	3.1	2.1	13.6
3) よく質問する					
よくしている	13.0	3.4	3.1	2.1	3.1
まあしている	17.0	6.5	7.1	5.7	1.6
少ししている	15.1	19.5	11.0	13.5	7.8
あまりしていない	26.6	(41.6)	37.9	31.8	21.9
ほとんどしていない	(28.3)	29.0	(40.9)	(46.9)	(65.6)
4) おしゃべりしない					
よくしている	5.7	1.0	1.6	2.1	0
まあしている	15.1	3.4	3.7	2.6	0
少ししている	13.2	12.2	7.9	7.9	7.6
あまりしていない	9.4	31.5	24.9	27.4	10.6
ほとんどしていない	(56.6)	(51.9)	(61.9)	(60.0)	(81.8)

※次頁へつづく

表8 好きな教科の勉強の態度(成績別)

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
5) ノートをきちんととる					
よくしている	58.5	44.7	32.6	28.4	22.5
まあしている	18.9	35.1	37.7	31.1	19.7
少ししている	9.4	15.1	16.8	18.9	19.9
あまりしていない	7.5	4.1	10.5	17.4	18.2
ほとんどしていない	5.7	1.0	2.4	4.2	19.7
6) 宿題をきちんとやっていく					
よくしている	66.0	55.0	41.4	24.6	21.2
まあしている	17.0	31.7	34.9	33.0	30.3
少ししている	5.7	5.5	14.1	19.8	19.7
あまりしていない	7.5	6.1	7.0	14.7	16.7
ほとんどしていない	3.8	1.7	2.6	7.9	12.1
7) そのテストができないとくやしい					
よくしている	62.2	39.3	24.3	14.7	21.5
まあしている	24.5	30.2	27.7	25.7	13.8
少ししている	3.8	13.9	27.9	37.6	24.7
あまりしていない	3.8	10.8	15.1	15.7	23.1
ほとんどしていない	5.7	5.8	5.0	6.3	16.9

○ 印最大値

表9 好きな教科の家庭学習の態度(成績別)

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
1) 言われなくても宿題をする					
よくしている	52.9	27.8	21.9	12.6	18.5
まあしている	22.6	34.2	28.0	20.4	10.8
少ししている	11.3	17.3	23.2	23.0	24.6
あまりしていない	0	12.9	20.6	27.2	13.8
ほとんどしていない	13.2	7.8	6.3	16.8	32.3
2) 予習する					
よくしている	33.9	10.8	3.4	2.6	4.6
まあしている	17.0	16.3	13.1	6.8	6.2
少ししている	20.8	27.8	30.4	21.4	15.4
あまりしていない	11.3	29.5	30.6	33.9	18.5
ほとんどしていない	17.0	15.6	22.5	35.3	55.3
3) 復習する					
よくしている	28.3	9.6	3.1	1.6	6.2
まあしている	20.8	16.0	9.2	2.1	3.1
少ししている	24.5	30.4	29.1	18.8	1.5
あまりしていない	9.4	30.7	36.9	48.3	30.8
ほとんどしていない	17.0	13.3	21.7	29.2	58.4
4) ドリルをしっかりとる					
よくしている	32.7	18.2	10.4	2.7	3.2
まあしている	25.0	24.8	19.4	11.0	15.9
少ししている	17.3	28.4	27.4	28.6	22.2
あまりしていない	9.6	17.1	27.0	30.2	14.3
ほとんどしていない	15.4	11.5	15.8	27.5	44.4

○印最大値

表10 テストで20点も予想していたより悪かったら次のテスト勉強は
がんばろうとする×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
とても思う	75.0	62.0	45.3	23.2	23.1
まあ思う	13.5	23.5	30.1	37.4	18.5
少し思う	1.9	10.4	16.9	25.8	15.4
あまり思わない	1.9	2.4	4.0	8.9	16.9
ぜんぜん思わない	7.7	1.7	3.7	4.7	26.1

○ 印最大値

🍌 係の仕事や掃除当番について 🍌

では最後に勉強以外のことでのやる気を見てみよう。表12と表13はクラスでの係や掃除当番に向けられたやる気である。

まず表12は係活動についてである。係の仕事については「他の人くらいはやっている」がポピュラーな反応だが、「いつも進んでやっている」子の割合は、成績上位群から順に35%、24%、16%、11%、19%となっており、なぜか上位群は勉強ばかりか係活動にまで積極的な様子が見いだされる。ただしこれには多少別の理由もあって、表11に示したように、今している係は始めからやりたい係だったかをたずねてみると、なぜか成績のよい子ほど

希望していた係になっている。なりたくなかった係をとると、上位群では21%なのに、それが下位へ移るにつれて22%、24%、27%、40%へと増加している。成績の悪い子は係活動まで損な選択をさせられてしまうのだろうか。これでは係活動にやる気が起きなくてもやむをえないのかもしれないのである。

また表13は掃除当番のときの態度である。成績ランクが下降するにつれて「掃除がきらい」となり、「手抜きをする」ようになり、「おしゃべりする人にも注意しない」ようになる。また先生がいないと「遊んでしまう」者の割合がふえていくことがわかる。

表11 今している係はなりたい係だったか×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
いらいなりたかった	47.1	35.5	30.3	32.8	27.7
まあなりたかった	32.1	42.8	45.8	40.7	32.3
あまりなりたくなかった	15.1	17.2	20.0	21.2	29.2
せつたいなりたくなかった	5.7	4.5	3.9	5.3	10.8

○ 印最大値

表12 係の仕事をよくやっているか×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
いつも進んで	34.6	24.4	15.5	11.2	18.5
他の人くらい	53.9	62.1	59.3	60.6	41.5
あまりしていない	11.5	12.5	24.9	25.0	33.8
できるだけしないようにしている	0	1.0	0.3	3.2	6.2

○ 印最大値

表13 掃除当番のときの態度×成績

(%)

	上	中の上	中	中の下	下
当番が楽しみ	30.8	27.6	18.0	17.3	12.5
当番がきらい	69.2	72.4	82.0	82.7	87.5
すみずみまでする	67.9	49.8	43.2	40.4	27.7
手抜きする	32.1	50.2	56.8	59.6	72.3
だまってる	18.6	24.6	19.3	18.7	10.8
おしゃべりしながらする	81.4	75.4	80.7	81.3	89.2
おしゃべりしている人に注意する	32.1	27.0	17.3	18.7	15.4
おしゃべりしている人に注意しない	67.9	73.0	82.7	81.3	84.6
遊ばずにする	30.2	35.2	25.8	18.2	13.8
遊んでしまう	69.8	64.8	74.2	81.8	86.2

🍊 成績とやる気 🍊

以上どのデータからも、成績のよい子と悪い子との態度的特性の差は顕著である。成績のよい子はそうでない子に比べ、成績や「いやな仕事」に関していずれも意欲的であり、いわゆる達成動機の強さが示されている。や

る気があれば成績が上がるといった単純な図式は描けないものの、少なくとも現在成績のよい子は全体として意欲的であることは確かなようである。